

子育てコラム

♪お馬の親子は仲良しこよし…、♪ちょうちょちょうちょ …と、言うように、子どもの歌には動物・植物がたくさん登場します。そこには、いつも心豊かな子育てを願う大人の心があります。

もともと子どもの歌は、感覚的にとらえればいいのですが、子育てという大人の視点から考えると、歌の意味である言葉を読み取り、伝えるということも大切になってきます。それには、いくつかの発問を用意し、子育てを考えるヒントが必要です。

ここではペンギンの詞を例にしてみました。

5月 ペンギン 詞 /五十野惇

♪ とりの くせに とべない ペンギン
でもでも みずに もぐるの てんか いっぴん
♪ つばさが あるのに とべない ペンギン
でもでも さかなを とるの てんか いっぴん



学生のプログコメントから

この作品を読んで、私は勇気付けられました。ペンギンは空をとべないけれども、泳いだり魚をとったりできるというように、誰にでも苦手なことがあるけれども、その人にしかできないこともあるということを強く感じました。

子どもに読み聞かせるときは「でもでも」の後を強調して読んであげたいです。

鳥だけでも空は飛べない。でも水の中にもぐったり、すごいスピードで魚を捕れるのはペンギンの良いところ。なんだか癒されます。短所もあるけど長所もある。人と動物は同じですね。この作品を読んで改めて感じました。個性は本当に大事です。ペンギンってんか いっぱい♪

みんなちがってみんないい。という金子みすゞさんの詩を思い浮かべました！子供も大人も、誰かと比べられて、優劣つけられるなんていやですよね。このペンギンのお話は、子供たちに「みんなちがってみんないい」ということを教えることができるのでとても素敵だと思います。しかも「ペンギン」と「いっぱい」が韻をふんでいていいリズムですね！

ペンギンを始めて見る子供は、ペンギンが鳥であるだなんて思いつくのかな。しかも、鳥なのに空が飛べない。だけど、魚を捕るのも水にもぐるのも他の鳥には出来ないペンギンだけの特技なんだよね。このお話を読んで子供たちが自分だけの特技やいいところを見つけられたらいいと思います。

できないことを認め、前向きに考えられることは素晴らしいことだと思う。悲しいことなのに、この歌はとても明るい歌だと思った。できないこともあるけれど、自分ができることも同じくらいあるんだ、と少し励まされました。できないからといってすぐにくじけてしまうのではなく、前向きに頑張りたいと思う。

「鳥は飛ぶもの」という概念が一般的ですが、ペンギンはそうじゃなくても日々たくましく、一生懸命生きています。考えると、当たり前のことで、そういう概念は私たちが考えたもので、ペンギンは全く関知していないことなんですよね。人間は一人一人違いがある。それは良いことなんだよ。変なことなんてないんだ。なんていう風に子どもに感じて欲しい詩だなと思いました。

ペンギンのお話を読ませていただきました。読みながら、子供たちに絵本を読んであげる時など、子供たちはペンギンが鳥の仲間であることに疑問を感じると思います。そんな中、子供たちに「泳ぎでは鳥の中で一番なんだよ。お魚より上手だよ。」って言ってあげながら、絵本を読んであげたいなあと思いました。

私も小さい頃、ペンギンは鳥だと思っていた時期がありました。鳥のくせに飛べないのはおかしいと疑問に思っていました。子どもたちがこの詩を読んで、人の短所ばかりを見つけないのではなく、いいところを見つけようとする心を育ててほしいなあと思いました。

リズムがよくて気に入った！！目で読んでるだけなのに、自然と頭の中にメロディーとい

うかりズムよくポンポン入ってくる感じがした。いっかい「くせに」とか「なのに」でちょっと落としてから「でもでも」で挽回していくと、より「てんかいっぱい」に感じるんだと思った。

夏にプール嫌いな子がいたら、この詩と一緒に読んで「プールでペンギンさんになろう！」などといえどもしかしたら好きになるんじゃないかと思います。同様に魚嫌いな子にも良い詩なんではないかとおもいました。

みんなでペンギンになって手を羽のようにしてばたばたして飛べないところを表現して「でもでも」のところをみんなで歌い、もぐるしぐさをして遊ぶ。2番は、みんなで作った魚を取るまねをすると楽しいと思いました。

「鳥は飛ぶもの」という概念が一般的ですが、ペンギンはそうじゃなくても日々たくましく、一生懸命生きています。考えると、当たり前のことで、そういう概念は私たちが考えたもので、ペンギンは全く関知していないことなんですよ。

子育てコラム

先日、TVでゴリラのクイズがありました。インターネットをたどって行くと、やっぱりゴリラのクイズがありました。そのクイズのキーワードは、やっぱり、お肉ですね。

ゴリラはテレビやアニメでは面白いキャラクターとして描かれることが多いのですが、実際のゴリラは体も大きく何処か凶暴なイメージがあるので、小さな子供たちにはこわい姿の方が強く、両手に肉を持って頬張っていそうなイメージがあるのではないかと思います。

ところで、ゴリラはお肉が好きか嫌いかな？ですが…。

5月 **ゴリラ** 詞 /五十野惇

♪ ぼくは にく すきすき
ゴリラは にく いやいや
けむくじゃらの きょじん
ゴリラさん どうして にく たべないの
♪ ぼくは セロリ いやいや
ゴリラは セロリ すきすき
けむくじゃらの きょじん
ゴリラさん どうして セロリ すきな



学生のプログコメントから

ゴリラさんって肉嫌いなんですね、意外です！ 一番、お肉をガッツリ食べそうなのに…。そして逆にセロリが好きなんて知りませんでした。私はセロリ嫌いです！ゴッツイのに、かわいい野菜を好むなんて面白いです。

私はこの詩は、野菜嫌いな子どもたちが沢山食べられるようになって欲しいという願いが込められているんだなと思いました。味のあるびっくりするような誌なので、セロリが嫌いな子も、ゴリラがセロリを食べているのをイメージして、一度「食べてみよう」という気持ちになってくれるかもしれません。あるいはね。

『ばくは・・・』というところを生徒が、『ゴリラは・・・』というところは先生が歌うようにして『いやいや』や『すきすき』というところも、『いやいや』『すきすき』という振り付けをつけたら、『けむくじゃらのきょじん』というところでみんなでジャンプして立ちあがったりしたらいいなと思いました。

小さな人間の子供は肉が好きで、ゴリラは毛むくじゃらで強そうなのにセロリが好きというギャップがおもしろいと思いました。セロリが嫌いな子も、ゴリラがセロリを食べているのを見たら、「食べてみよう」という気持ちになってくれるかもしれません。子供が動物に興味を持ち、野菜嫌いも克服できたらとても素敵なことだと思います。

ゴリラは私と正反対です。肉が食べられないのはとても以外・・・!!子供たちも、この歌で初めて知ると思います。先生はゴリラのことをなんで「きょじん」と書いてるんだろうと思いました。でもよく考えたら子供にとってゴリラは大きいなと思い、ここでまた先生は子供の心がよく分かっているなという事を改めて思いました。

野菜・果物だけであんなに大きくなるものなんですね。びっくりしました。

子育てコラム

最近では、飼育係として就職を希望する大学生が増えて、夏休みや春休みに飼育体験実習を受け付ける動物園も多くなっています。一般公開もあって飼育係のお手伝いをさせていただける時もあります。

その中でも人気コースは象の飼育コースと聞きました。名曲の童謡『ぞうさん』（作詞：まど・みちお、作曲：團伊玖磨）なら誰でも知っているし、それから第二次世界大戦中の上野動物園で象を餓死させたノンフィクション童話『かわいそうなぞう』（土家由岐雄作）

は絵本や紙芝居として読み続けられ、今や発行部数は三百万部を超えているということからも、象の人気の秘密も伺えます。

そんな象の獣舎（じゅうしゃ）に入ると、干し牧草や象のフンや尿（にょう）の臭いが強烈に鼻をつきます。とは言っても、象に触れるのは危険で、めったには近寄れません。それでも、おりの外からお鼻を触らせていただける時があります。恐（おそ）る恐る鼻に触ると鼻先はぬれていてザラザラしています。その鼻はどんなにちいさな針でもつかむことができ、痛いと感じる機能がなく、高性能と聞きました。

こうして象のお話を聞いていくと、たまらなく象に関心を持ち、飼育のお仕事にも夢を描いたりするのではないのでしょうか。

5月 ゑうだ ゑう

詞 /五十野惇

♪ ゑうだ ゑう
インド ゑうだ ゑう
みみが ちいさい ゑう
やさしい ゑう
♪ ゑうだ ゑう
アフリカ ゑうだ ゑう
みみが おおきい ゑう
こわい ゑう



学生のプログコメントから

ぞうにも種類ってあったんですね！！初めて知りました・・・（笑）このお話は、「ぞう」と「だぞ」がかかっているので面白くて口ずさんでしまいました。それに、言葉の最後に「ぞう」をつけることで、ぞうの雰囲気が出てきますね。

ぞうは芸をしたりサーカスに出演したりテレビで見ます。人と心を一つにしたり、信頼したりすることもできる！

とてもリズムがよくて覚えやすい詩だと思いました。最後に全て「ぞう」をつけることによって楽しく、そしてぞうのことについて無意識にでも覚えることができるのでいいと思います。すごくかわいい詩で子供たちに教えたくくなりました。

ぞうはみんな優しく見えるけど怖いぞうもいるんですね！ぞうがとても大きく、迫力

があるということが伝わってきます。しかし、その中にある優しさも一緒に伝わってきました。

ぞうは大きいイメージがあるけどインドぞうは耳も小さく可愛いイメージなのがとても共感できました。それに比べて、アフリカぞうは怖いと思いました。

ぞうだぞう、ぞうだぞうと繰り返しているのです、子どもと一緒に歌って楽しめそうです。

このお話で、インドぞうとアフリカぞうの性格がよくわかりました。もし自分が、このお話を誰かに聞いたら絶対にいろんな人に「インドぞうは、耳が小さくて優しいんだよ！」「アフリカぞうは、耳が大きくてこわいんだよ！」とみんなに自慢すると思います。「ぞうだぞう」がとても覚えやすく、面白くて、口ずさんでしまいたくなりました。

先生の言葉はどことなくリズムを感じて面白いものだと思います。鬼ごっこ見たいなゲームが思いつきました。何人かの子供にぞうのお面をつけてもらいだんだんゾウさんが多くなっていくゲームです。鬼に捕まった人からゾウさんのお面を作ってやる。単純なゲーム。少し間抜けかもしれませんがおもしろいかも。

5月 つばめの あかちゃん 詞 /五十野惇

- (1) つばめの あかちゃん まっててね
かあさんつばめが えさを くわえて くるからね
- (2) つばめの かあさん それ いそげ
あかちゃんつばめが おなかを すかせて まってるよ

5月 トラ 詞 /五十野惇

- ★ きいろと くろの ししま パンツ
あれは トラの パンツ
- ★ きいろと くろの ししま もよう
こうつう ひょうしき



学生のプログコメントから

トラは怖いイメージがあるけどこの歌に出てくるトラはすごくかわいらしいと思いました。ラの黒と黄色のしましまもかわいく表現されていて良いと思います。

この歌はトラの体の模様について、短くわかりやすく言っているのでいいなあと思いました。

黄色と黒というのを、“交通標識”と動物とは違うものを出しているところもおもしろいと思います。

とっても可愛らしい歌だなと思いました。トラの可愛さと、交通標識と、勉強になる部分を兼ね備えててとてもいいと思います。

この歌は、黄色と白のしましまはトラで、黄色と黒は交通標識だということが短い中でも覚えることができるのでいいと思いました。リズムにのって歌えば楽しく歌えると思いました。他にも、しましまの物が身近にあるかどうか探してみたらおもしろいと思います。例えば、シマウマなどです。そうすれば、歌から、どんどん広がると思いました。

とらは肉食動物ですし、黄色と黒は私たちの日常生活で注意の標識によく使われているので余計に怖い印象を持つてしまうのではないかと思います。しかし、とらの模様が「きいろとくろのしましまパンツ」と思うととてもかわいらしい雰囲気になりますね。

短い詩なのにインパクトがあってすぐ覚えてしまいました！「きいろとくろのしましまもよう」だけでもトラを表現することが出来るなんて言葉って面白いと改めて思いました♪

子育てコラム

和気あいあいの雰囲気があると、今自分がいるところ、「ここは良いところ」と子ども達は終生感じていくと言われています。とりわけ、子ども達には「毎日が楽しい」ことで、家庭が「良いところ」「良い居場所」と思うのですね。

それには、どうしたら良いのでしょうか。家庭以外のところにしか楽しみが求められなくなり毎日曜お出かけするのも困りますけど、家族と一緒にただおしゃべりをするだけの何気ない日常の暮らしでも楽しく過ごせたら、それこそ良い日ですね。

私たち大人も大人になってから思い出すのは、そんなたわいもない子どもの頃の日常生活で、そんなたわいもない日常生活こそ、子ども達が大きくなってから、恋愛や結婚に影

響するかと思います。

そんな生活に、身近に言葉を楽しむクイズも良いですね。ちょっぴり好奇心を目覚めさせるなど面白いです。

5月 にほんざる

詞 /五十野惇

Q 「どなたですか」

A 「しっぽが みじかいです」

Q 「どなたですか」

A 「かおが あかいです」

Q 「どなたですか」

A 「しりだこが あかいです」

Q 「どなたですか」

A 「きに のぼります」

Q 「キャッー キャッ」

A 「にほんざるです」



学生のブログコメントから

「どなたですか」問いかけにちょっとずつのヒント。読みながら自分も考えられる。それに、テンポがとても好き。とても可愛らしい詩で楽しい気分になりました。

なぞなぞみたいな歌詞でとってもかわいらしい歌ですね！会話調になってるから、2人で読んでも楽しくなると思います！また、どなたですか？って聞かれると思わずじぶんも誰だろうって考えちゃうから、興味をあまり示さない子にも楽しめるんじゃないかなって思います！それに動物の特徴をゆうことで自分が知らなかったことも増えて一石二鳥だし☆ぜひやってみたいです♪♪

「どなたですか」の問いの後に少しずつその正体を明かしていき、最後に「キャッー キャッ」というお猿さんの鳴き声を入れるという展開が面白いと思いました。楽しみながら知らぬ間にみんなが楽しくなっていますね。

4回ほど出てくる「どなたですか」という言葉の言い方を、一回一回変えて言う子供たちもワクワクしながら次のヒントを待つことができると思います。その場その場にあわせた読み方の工夫でさらに盛り上がりますね。

サルじゃなくても、「首が長いです」なら麒麟になるし、「怠けてばかりいます」ならナマケモノになりますね。自分たちで考えて、お友達と楽しむことも出来ると思いました。

私は、「どなたですか」の部分を生徒に呼びかけてもらい、「しっぽがみじかいです」や「かおがあかいです」などの部分は先生が生徒の呼びかけに答えるような形でやってみたいと思いました。

子供にこの歌をぜひ歌ってあげたいです！！にほんざるの赤い顔とおしりのことを詩に書いて子供は喜ぶと思います^^こういった詩の書き方で動物のことを歌うのは良いと思います！

今回のお話は、おさるさんと会話式のお話ですね！とっても面白いです☆おさるさんの特徴も覚えられるし、子供たちに話をするときには「〇〇ちゃん(くん)はどうか～？」と言っておさるさんと比べっこしたいです！また質問する側と答える(おさるさん)側の声を変えてお話してみたり、子供たちにも覚えてもらい二つの役を代わりばんこにして遊んでみたいです♪

「どなたですか」と聞き、少しずつ自分のことに関するヒントを話し、最後に「にほんざるです」と正体を明かすというこのお話の展開がとても面白いなあとと思いました。ヒントを聞いて、この動物が何なのかを懸命に考えている子供たちの姿が目に浮かびます。

子育てコラム

オリンピック ETV「ツヨイツヨい強い、ツヨイツヨい強い…」と北島康介選手の平泳ぎをライブ中継するアナウンサーの言葉。北島康介選手は人間の王者かもしれません。

王者への夢はどうしたらかねえられるのでしょうか。やはり、食べることですか。「たべなくちゃー」強い子、わんぱくな子にはなりませんね。よく食べる、凶暴ってというイメージ、百獣の王で怖い動物というと、あの強いライオンですね。

今回はライオンの言葉遊びで、食べる子、強い子になってみましょう。

5月 **ライオン** 詞 /五十野惇

げつようび	げんきに	たべた
かようび	かりかり	たべた
すいようび	すいすい	たべた
もくようび	もくもく	たべた
きんようび	きこきこ	たべた
どようび	どんどん	たべた
にちようび	にこにこ	たべた
ライオン	ライオン	いちねんじゅう たべた



学生のプログコメントから

食べることにとっても愛着がわきますね。子どもにとって食事は大切な仕事のひとつだと思います。曜日と合わせることで親近感を持たせて、食べることへの関心が強くなって、しかもライオンという立派な動物の歌にすることで『僕もごはんを食べれば強くなれるんだ』と思わせることができます！

力強く雄々しいライオンはカッコいいので好きです！この詩はポンポンッとテンポが良くて楽しく読めますよね。また擬音語が毎曜日使われているので、子どもが楽しく歌えそうです。文ではライオンが毎日モリモリおいしそうに食べているので、可愛らしく愉快的なイメージが浮かんできます。

ライオン いちねんじゅう たべたというタイトルだけ見るとこわいなとか少し残酷なイメージがありますが、詩をよんでみると以外に可愛らしく、言葉の表現によってこんなにもイメージが変わるのだなと感心しました。

力強くて雄々しいライオンはカッコいいので個人的に好きです！ この詩はポンポンッとテンポが良くて楽しく読めますよね。また擬音語が毎曜日使われているので、子どもが楽しく歌えそうです。文ではライオンが毎日モリモリおいしそうに食べているので、可愛らしく愉快的なイメージが浮かんできます。そこから食事の楽しさ、大切さを学ぶのではないのでしょうか。

週の終わりの「にちようび」が「にこにこ」なのが凄く素敵だと思いました。ライオン＝強いイメージですが、このお話しライオンは、優しい感じがしました。

このお話はライオンが一週間ずっと食べてばかりでとても面白いです。曜日によって食べ方が変わって可愛いと思いました。子どもたちはライオンのようにいっぱい食べれば強くなれると思う気がします。

すごいかわいい歌詞だなんておもいます。曜日ごとにちがう擬音語を使っていて楽しい歌詞だなんて思います。百獣の王らいおんもこんなかわいい歌にはたじたじですね！この歌詞をみていると普段ちょっと怖いライオンのイメージも変わってみえて可愛らしく思えます。

子ども達をらいおんさんになりきらせるのも楽しそうです♪とにかく、子ども達にはご飯を食べるときも楽しく、また、いっぱい食べて欲しいと思います☆

ライオンがものを食べる時に、月曜はげんきに、火曜はカリカリ・・・という風に言葉遊び的な表現を使っているのがとても面白いと思いました。単純だけど、「元気に」「カリカリ」「すいすい」・・・という所を強調して歌ったら、子どもはとても喜ぶんじゃないかなと思いました。

5月 ありの ギョウれつ 詞 /五十野惇

- (1) ありの ギョウれつ どこへ いく
ごちそう かついで えっちらこ
- (2) あそこだ もうすぐ ありの あな
ちからを あわせて えっちらこ

学生のプログコメントから

働き者のアリが小さな体で一生懸命に食べ物を運んでる様子が浮かびました。「えっちらこ」という掛け声がかわいらしくて印象的です。

この歌は、とっても小さなアリがみんなで力を合わせて、えさを巣まで持っていく頑張りが伝わってきました。一匹一匹はとても小さくて何もできませんが、皆で力を合わせればなんでもできるのだと思いました。まさに、「塵も積もれば山となる」ですね！！

リズムが良く、読んでいて楽しくなる詩ですね。何事にも関心を示していた子供時代によく見かけた蟻の行列ですが、あの頃「この蟻たちはどこへ行くのだろう」と不思議に思っていたものです。今となっては気にも留めなくなってしまった蟻の行列。子供の視点から見た純粹でとてもかわいらしい詩だと思いました。

とてもリズムがよく、「えっちらこ」というのがかわいくて気に入りました。蟻の行列を見ていると私はかゆくなって好きではなかったのですが、この詩を通して気持ちがやわらかくなったように思います。ちっちゃい蟻が一生懸命「えっちらこ」と餌を運んでいる状況が目には浮かびます。

「えっちらこ」からありの一生懸命さが伝わってきて、思わず「頑張れ〜！！」と応援したくなりました(笑)

2列くらいになって、どこかに向かって汽車のように歌いながら進んでいったら遊べると思います。

子育てコラム

うさぎは顔がふっくらまんまる、寝るときは手をきちんと揃えていたりして愛らしく可愛いです。そんなことから、うさぎは幼稚園や保育園でよく飼われています。最近では家庭の中でも飼われ犬や猫と同じように飼われるようになりました。

それにしても、夏の厳しい暑さ、とりわけ暑さに苦手なうさぎさんにとってタイヘン。また、涼しくなったからといって湿度が高いと元気がなくなります。うさぎは思った以上にデリケートなんですね。また、動きが早いので UP の写真はほとんどがピンボケになってしまいます。

そんなうさぎを「抱っこしたい」と子どもたちは思うのですが、それがなかなか思うようにいきません。では、どうしたらよいのでしょうか。

5月 うさぎ 詞 /五十野惇

♪ うさぎ こっち こ
いたい いたい しないから
みみ もたないから
こっち こ
うさぎ こっち こ
♪ うさぎ こっち こ
よし よし するから
せなか つかむから
こっち こ
うさぎ こっち こ



そうなんです。うさぎは耳を持つといやがるのです。背中をつかんでやさしく抱き上げると心臓の音まで聞こえてきて、なでなでしたくなり、その柔らかさが気持ち良いです。いつのまにか、うさぎの方から「なでて、なでて」とおねだりされます。まあ、うさぎは甘えん坊なんですね。

学生のブログコメントから

「こっち こ」という表現がこどもたちにとって、とても親しみ易いのではないかと思います。更に、「～から」という表現でうさぎに話しかけている感じが出ていて、こどもたちは優しい気持ちで歌うことができると思います。まだ動物とどのように接したらいいかわからない年齢のこどもにこの歌を使って教えたいです。

「うさぎ こっち こ」という掛け声が、とてもテンポが良くて可愛らしいです。うさぎの扱い方も記されていて、子どもたちは歌って楽しめるだけでなく、動物との接し方も覚えられそうなので、とても良い詩だと思いました。

かわいくてよかったです。さりげなく耳持ちやいけないこととか教えてていいと思いました。うさぎをさわりながら、教えたいです。

「うさぎ こっち こ」というのがとてもリズムがよくて、かわいらしいなと思いました。

「こっちこ」という言葉の使い方が可愛いと思いました。

うさぎはほんとうにおとなしくてかわいらしくて、長い耳が人気で、私も大好きです。この詩を読んで、みんなが大好きなうさぎと触れ合うときに生まれるやさしさや、あたたかい感情が胸いっぱいに溢れていると思いました。

このお話を読むことで、自然にウサギの抱き方を覚えることができるんですね。触れ合うことが少なくなってきたからこそ、その機会が巡ってきたときに正しいふれあいをさせてあげたいと思います。

このお話はうさぎの臆病なところやかわいいところがでていたと思います。お話を読んでうさぎを撫でたいなと思いました。暖かい気持ちにさせてくれるお話だなあと思いました！！

子供にとってうさぎは、身近で親しみやすい動物だと思います。以前ボランティアをした保育園でもうさぎを飼っていました。子供たちに動物の扱いに慣れてもらうためにも、歌で教えてあげると分かりやすいと思います。また、実際にうさぎと遊ぶときは子供がうさぎに手を噛まれないように自分自身も注意する必要があるなと思いました。

このうさぎの歌のなかには、みみ持たないから、せなかつかむから・・・とうさぎの持ち方がかいてあって、そのことはうさぎだけでなく他の動物などに対してもいえることなので子供たちにとって大切なことだと思いました。いたいいたいしないこともとても大切だと思います。